

第1学年 総合的な探究の時間

ねらい：「コンビニから地域を考えよう」

「今日からコンビニを見る目が変わる!？」

令和7年6月10日(火)第1学年の4クラスで、本年度探究のテーマに迫るために“データ分析”を身近なテーマで扱います。結果はいかに。

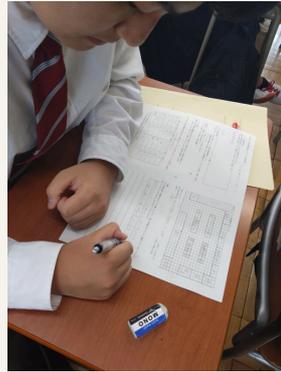
身近な事例から「問い」を変換。キーワードが生徒に定着してきた。

売れる商品だけを置くために何をしてる？



コンビニは、狭い店内に「売れる商品」だけを陳列している。コンビニから地域を分析できるという仮説を立て、ワークを行いました。生徒の興味が湧きます!

近くのコンビニ? どんなんだったけ?



近くのコンビニを思い出してみると、確かに在庫を置けるようなスペースも狭いし、頻繁に品出ししているな・・・。「この間は売ってたのに」ってこともある。これまで考えたこともなかったけど、結構楽しい!

ミッション! 近所のコンビニの商品棚配置を思い出せ!

コンビニから地域の特徴が分かる



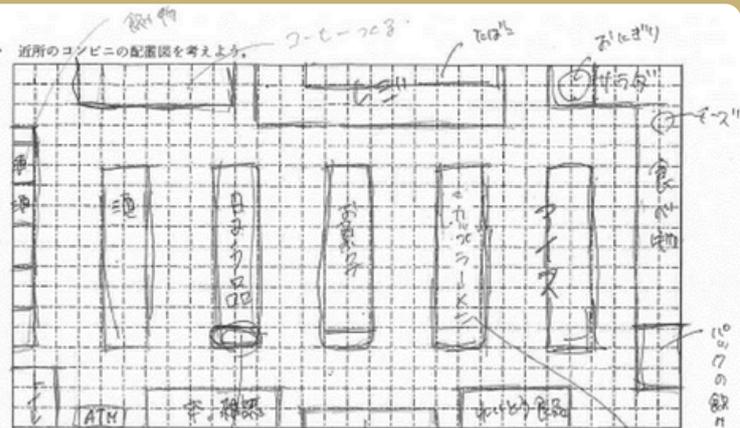
・コンビニの流通の特徴
お客様のニーズに対応するために
「多頻度」：頻繁に、何度も繰り返すこと
「小口」：少量の、小さな単位で配送すること



売れる商品を置くことで面積が小さくても利益が見込める



・コンビニの商圈
商圈：特定の店舗や商業施設に来店する可能性のある顧客が居住する地理的な範囲のこと
某コンビニは「徒歩5分圏内(約400m)」を基本的な商圈として設計



・分析してみよう
私の近所の売り場は (お菓子) (お弁当) (お惣菜) が広い。したがって近所に (お菓子, お弁当, お惣菜) が多いと考えられる

生徒の感想

「龍ヶ崎市にはどんな人が住んでいるか?」を知りたいときに、ただアンケートをとったり、実際にどんな人がいるかを調べたりするのではなく、問いを変換して「そこに住む人がよく利用している場所、物はどんなものなのか?」と考えてみると、アンケートをとって調べるよりも効率的でより簡単に調べられるということが分かった。この問いの変換を他の問いにも使って、簡単に答えを出せるようにしたい。